

焚火の事務所

幼児たちの後の祭り

作 秋浜悟史

演出 三枝希望

現代演劇レトロスペクティブ:

「幼児たちの後の祭り」について

この作品は六十年安保後の学生運動から連綿と活動が続いている「幼児教育研究会」の分裂を描く。チェーホフを師と仰ぐ青年と女優、学生運動に明け暮れた者たちが参加するこの研究会では、エプロンをつけた「かあたん」という人物のもと、しりとりに電車ごっこといった遊びに興じ彼女の子守歌にのせて、激闘の学生時代が思い出されていた。研究会はすでに求心力や明確な目的を失っているのにも関わらず活動を続けようとして・・・。

《初演：1968年、劇団三十人会》

AI・HALL 2013年 11/21(木) ~ 24(日)

焚火の事務所

1998年より三枝希望が、自身の作品を劇団の枠にとらわれず上演するために立ち上げた個人プロジェクト。各地で起きた家族の軋轢による犯罪や事件を素材に家族の関係に潜む「魔」を描き、小さな幸せの横溢する環境の中でさまざまにいらぬ人々の姿を現す。三枝作品以外の上演は、西光万吉「浄火」以来2作品目となる。

幼児たちの後の祭り

作 秋浜 悟史 (あきはま とし) 劇作家・演出家

1934年、岩手県生まれ。早稲田大学演劇科卒業後、岩波映画製作所入社。同僚に、羽仁進、田原総一郎らがあり、2年後に清水邦夫が入社、席を並べる。
 '62年劇団三十人会に参加。'66年、『ほらんぼか』で第1回紀伊國屋演劇賞(個人賞)受賞。'69年、第十四回岸田戯曲賞受賞や、兵庫県文化賞など多数受賞。
 '73年、関西に移住後、大阪芸術大学舞台芸術学科長・同大学院教授、兵庫県立ピッコロ劇団代表、兵庫県立宝塚北高等学校演劇科長などを歴任。
 また、滋賀県の知的障害者施設「もみじ寮・あざみ寮」にて長きに渡って劇作りを指導。
 影響を受けた者は数多く、関西では、南河内万歳一座、劇団☆新感線をはじめ、薫陶を受けた劇団、劇作家、俳優、スタッフ、観客は数知れない。
 2005年逝去。秋浜悟史は人を育てる天才であった。

演出 三枝 希望 (さえぐさのぞみ) 劇作家・演出家

1960年、静岡県生まれ。大阪芸術大学舞台芸術学科にて秋浜悟史に師事。同大学院動態表現Ⅱ修士課程修了。
 '84年、劇団狂児会結成。第一回スペースゼロ・オリジナル脚本賞、第六回テアトロ・イン・キャンピング戯曲賞佳作、
 第一回兵庫県芸術奨励賞受賞。現在、焚火の事務所主宰、梅花女子大学短期大学部准教授。保育園の副園長も務めている。

西の国の秋浜さん

喜志 哲雄 (京都大学名誉教授)

秋浜悟史氏は若者が本当に好きだった。

秋浜さんが教えていた大阪芸術大学では、学生劇団が次々に生れたが、あれはこの先生のせいだったのではないと思う。

凡庸な教師は学生に向って、あれをしろ、これをしろと言うものだが、秋浜さんは強制めいたことをせず、ただ芝居の面白さを見せつけるだけである。だから、誘惑に抗しかねて芝居の道に進む学生が何人も出現した。1994年に活動を始めた兵庫県立ピッコロ劇団では、秋浜さんは初代代表となったが、劇場近くの居酒屋で若い俳優たちに囲まれて楽しそうに談笑する姿がよく見られた。

俳優たちの多くは秋浜さんの葬儀に参列していたが、それを見て、秋浜さんはこれからは若者の記憶の中で生き続けるのだと思った。

『幼児たちの後の祭り』が再演されるのを知って、秋浜さんが今も生きていることを私は一層強く感じる。

秋浜先生のこと

三枝 希望 (焚火の事務所主宰)

たとえば、子どもたちとお芝居作っているとき、うるさくて、邪魔ばかりして大声上げるどうしようもない子どもがいると、

秋浜先生は恐ろしい形相でその子に「声が小さい! もっと大きな声で!」と怒鳴ります。

キョトンとしたその子は次にどう対応し、まわりはその先生の言葉の意外さにどう対応するか、きっとそこから生まれる化学反応を楽しむためです。

ハブニングを触媒として集団が何か言葉にできない合言葉を持ち始めます。演劇をじゃなくて、人との関わり様を見せてくださる先生でした。

その後、怒鳴られた子は「おまえがうるさい!」と先生の口にガムテープを貼り付けたとか。先生はニコニコしてモゴモゴ演出していたそうです。

みんなが笑います。聞いた話です。その場に居られなかったことの悔しさ。そんな先生の言葉を、先生が大好きな方々と共に皆様にお伝えできれば。

【出演】

保 (兵庫県立ピッコロ劇団)
 工藤 俊作 (KUTO-10)
 村木 よし子 (劇団☆新感線)
 右近 健一 (劇団☆新感線)
 孫 高宏 (兵庫県立ピッコロ劇団)
 森 万紀 (兵庫県立ピッコロ劇団)
 石川 郁子 (劇団いちびり一家)
 石本 由宇 (劇団いちびり一家)
 三穂 真理子 (劇団いちびり一家)
 得田 晃子
 阪上 洋光 (劇団いちびり一家)
 吉井 希 (劇団いちびり一家)
 津久間 泉 (空の驛舎)
 市川 愛里 (ニットキャップシアター)
 梅原 吉人
 小川 千絵
 猿渡 美穂
 末松 宏基 (テアトルアカデミー)
 谷松 香苗
 畑中華香 (悪い芝居)
 福谷 智子
 金久 寛章

美術 今井 弘 (劇団☆太陽族)
 照明 徳田 芳美 (アート・オー)
 音響 廣瀬 義昭 (T&Crew)
 作曲 藤森 暖生
 演奏 アツキイズム
 歌唱指導 右近 健一 (劇団☆新感線)
 振付 橋之爪 梨絵
 映像・宣伝美術 サカイヒロト
 舞台監督 サコ
 キャスティング 工藤 俊作 (KUTO-10)
 制作 岡本 康子 (TRASH)
 協力 須川 渡 (大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室助教)
 主催 公益財団法人伊丹市文化振興財団・伊丹市

平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

【会場】AI・HALL (伊丹市立演劇ホール)

【日時】2013年11月

21日(木)			19:30
22日(金)			19:30
23日(土・祝)	13:00		17:00
24日(日)		15:00	

※受付開始(当日券発売)は開演の1時間前、開場は開演の30分前

☆シアタートーク: 23日(土・祝) 17:00 終演後

ゲスト 内藤裕敬 (南河内万歳一座 座長)

【料金】(日時指定・全席自由・整理番号付)

〈前売〉一般 3000円 学生 2000円 ペア 5000円 (前売のみ)

〈当日〉一般 3300円 学生 2300円

【チケット取扱】

●焚火の事務所 (WEB予約) <http://www.office-takibi.jp/>

※上記まで、お名前・人数・ご連絡先・ご来場日時をお知らせください。

●AI・HALL (TEL) 072-782-2000 (電話予約のみ)

【劇団お問い合わせ】

MAIL takibinoyouji@yahoo.co.jp



AI・HALL

兵庫県伊丹市伊丹2-4-1 TEL.072-782-2000

◎JR宝塚線(福知山線)伊丹駅下車西側すぐ

◎阪急伊丹線(塚口駅より乗換え)伊丹駅下車、東へ徒歩7分



焚火の事務所

<http://www.office-takibi.jp/>